

目 次

I	研究の概要	1
1	研究主題	
2	研究主題設定の理由	
3	めざす児童像	
4	研究の内容	
5	授業改善のための研究授業・授業研究会の充実	
6	研究組織	
7	研究計画	
II	研究の実際	8
1	「聴き合う関係」を育てるため	
2	学び合いを深めさせ支え合う関係を育てるための手立て	
3	単元全体の目標を達成するため、学び合いを効果的に取り入れていく	
4	学校課題研究・教材研究の時間として「文殊の知恵タイム」を毎週金曜日 4：15～4：30の15分間実施する	
5	授業参観において、「学び合い」の授業を行い、保護者に「学び合い」のよさを伝える機会とする	
6	学び合いアンケートの実施	
7	家庭学習“本気”週間・親子読書週間を学期1回年間3回実施する	
8	できるだけ多くの職員が「学びの共同体」実践校の視察をして、学んだことを持ち帰り全職員に伝える	
9	授業改善のための研究授業・授業研究会の充実	
10	公開研究会をもち、全教師が授業を公開する	
III	成果と課題	14
1	成 果	
2	課 題	

「学び合い」で授業が変わる、子どもが変わる、教師が変わる

提案者 日光市立大沢小学校教諭 石川 創未

I 研究の概要

1 研究主題

「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」
～思考力・表現力を高め合う授業を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 学校経営ビジョンと「授業改善デザイン」（日光市教育委員会）から

本校は、「児童に、保護者に、地域の方々に『笑顔と希望を与える』」ことを学校経営ビジョンとし、日々の授業の充実に努めている。1時間1時間の授業を中心に「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」を図ることは、保護者や地域の方々にも「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う関係を広げていくことに通じている。そして、やがて「児童に、保護者に、地域の方々に『笑顔と希望を与える』」ことにつながっていくと考えられる。

また、昨年度日光市教育委員会から示された「授業デザイン」によれば、目指す授業像が次のように掲げられている。

子ども主体の学びのある授業づくりを、問題解決的な授業、学び合いのある授業である「〈問い〉のある課題を、学び合いながら解決する授業」により実現する。

上記に示されているような子ども主体の学びのある授業づくりを実現するためには、「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」を図ることが大切な土台となると考えた。

(2) 昨年度の学校課題と児童の実態から

本校は、一昨年度「ともに学び合い、たがいに表現を高め合う児童の育成」～（算数科において）児童の思考過程に寄り添うことを通して～という研究主題のもと実践・研究を進めてきた。その成果として、「ペアやグループ学習において、学び合いが成立することが増え、考えが深まってきた」「さらに高いレベルの課題に挑戦しようとする子が増えてきた」「ノートに自分に合ったやり方で解決方法を表現できるようになってきた」「友だちにわかりやすいアドバイスや伝わりやすい発表ができるようになってきた」等があげられた。

昨年度は、「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」～「アクティブラーニング」と「ジャンプの課題」を通して～という研究主題のもと実践・研究

を進めてきた。その結果、次の３点で成果が見られた。

○ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ聴き合う関係の醸成に努めたことにより、子どもたちがつながり安心して学べるようになった。

○学力（上位・中位・下位）に関係なく、すべての子どもたちが「ジャンプの課題」に夢中になって取り組み、探究する姿が見られるようになってきた。

○「ジャンプの課題」の解決をめざす過程でペアやグループによる学び合いが深まり、思考力・表現力が高まってきた。

今後の課題として、「教科の特質をいかしながら単元全体を通して『質の高い学び』を探究させる」ことが焦点化された。

以上のことから、今年度も、１時間１時間の授業を通して「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う関係」をつくることを土台としていくことにした。

(3) 昨年度の取組から

昨年度本校では、日光市教育委員会による「子ども主体の授業づくり訪問」を２回にわたり受け、指導主事による指導助言のもと授業改善を進めてきた。

また、10回にわたる研究授業・授業研究会（一人２回以上の研究授業）を通して、授業中の子どもの学びを見取りそれを出し合い、教師同士がそこから互いに学び合う関係が醸成されてきた。昨年11月には、市内の教師を招き「全学級による授業公開」を行い、学校課題達成に向けた取組を見てもらい共に協議し合った。そのことにより、さらに１歩研究を進めることができた。

これらの取組を引き続きいかすためにも、「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」を図りたいと考えた。

以上３点の理由から、本主題を設けた。

3 めざす児童像

学校経営ビジョン	児童に、保護者に、地域の方々に「笑顔と希望を与える」
	○すすんで学ぶ子 ○元気でやりぬく子 ○なかよく働く子
研 究 主 題	「たがいに聴き合い、学び合い、支え合う児童の育成」 ～思考力・表現力を高め合う授業を通して～
め ざ す 児 童 像	<ul style="list-style-type: none">・わからないとき、友だちにきける子ども・友だちにきかれたとき、わかりやすくアドバイスしようとする子ども・もう１歩上のレベルを探究していく子ども・たがいに学び合い、支え合う子ども

4 研究の内容

(1) 「聴き合う関係」を育てるための手だて

①学習環境を整える

○机の配置 … 全学年通常コの字型

1・2年は、いつでもペアで話せるように

3～6年は、学習内容によって、男女混合4人グループ（5人にはしない、3人グループもOK）やペアで学び合いができるように

※座席は、ランダム。くじ引きでよい。席替えは、実態に応じて適宜行う。

○黒板前に机類を置かない。椅子を1つ置いてもOK。

※子どもと目線を合わせられるようにするため

○実物投影機、デジタル教科書（国語、算数）をいつでも使えるようにしておく。

②授業中（授業を「学級づくり」の中核に！）

○友だちや教師の話を耳をすませて聴く姿勢を育てる。

➡ まず、教師が子どもの話を耳を澄ませて聴くこと（できそうでできないこと！）

「友だちのはなし、大切にしよう」「○○さんのはなし、ききとれたかな？」

「最後まできこう」

○わからないことは、友だちにきく姿勢を育てる。

子「ここ、わからないんだけど」 教師「友だちにきくって大切なこと」
子「ここ、どうするの」 教師「友だちにきくとかしこくなれるね」
子「どこ、やってるの」 教師「友だちにきくと新しいことがわかるよ」

○友だちにきかれたら、自分のすることをやめてわかりやすくアドバイスする姿勢を育てる。

教師「友だちにアドバイスすると、いっしょにかしこくなれるね」
教師「友だちにアドバイズすると、いいアイデアが浮かぶよ」
教師「友だちにアドバイスしたことは、ずっと忘れないで役立つよ」

○一人の子をつくらない。➡ 一人になりそうな子のそばに、まっ先に行き「つなげる」
(つながってほしい子の方からの声かけ)

※目線を合わせて

教師「どこでこまってるの？」
教師「こまってるところ、言ってごらん」
教師「『わからない』って、ふきだしに書いてみよう」
教師「『わからない』ところに、線をひいてごらん」

一人になりがちな子ほど、こだわりが強く自分一人で何とか解決しようとする傾向がある。

「おとなりさんに聞いてみたら…きっと、いいヒントがもらえるよ」

「『ここ、どうするの？』って、聞いてごらん」

「『これでいいの？』って、聞いてごらん」

(2) 学び合いを深めさせ支え合う関係を育てるための手立て

○「質の高い学び」を目指す課題（教科書より1段階か2段階レベルの高い課題）を工夫して、学びの質を高める。

- ・学校生活や日常の生活で活用できる課題
- ・多様な解決方法が考えられる課題
- ・1学年か2学年上の単元につながる課題
- ・多くの情報から必要な情報を選び解決する課題

★レベルの目安 学級で一番高位の子が自力で解決できないと思われるレベル

※いずれも、子どもたちが興味関心をもって取り組める課題が望ましい。

※子どもたちに課題づくりをさせることも有効（教師が思いもつかないような手ごたえのある難問が生まれることも）

○学習の目的に合った「アクティブラーニング」（コの字型、ペア学習、グループ学習）の工夫

- ・子どもの「つぶやき」や「ノートへの書き込み」を積極的に取り上げ、授業を組み立てる。
- ・基礎基本の定着を図る授業においても、ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れる。

○教師の姿勢

- ・テンションを下げる。（子どもたちが安心して教室に居られる声）

・（授業中）教師三大心得

★「聴く」… 子どものつぶやきや発言を耳を澄ませて聴く。

★「もどす」… テキストや学習課題や友だちの発言にもどす。

「(教科書の) どこからそう思ったの？」

「(学習課題) どう書いてあったかな？」

「だれの考えからつなげたの？」

「(発言した) ○○さんが言ったこと、おとなりさんに伝えてみよう」

「(発言した) ○○さんの気持ち、わかる人、言ってみて」

★「つなぐ」… 「(○○さんに) つながる人？」

「(○○さんに) つなげてみて？」

「(○○さんに) つながること、おとなりさんと話してみて？」

○教師の居方を大切に

- ・学び合いでは、だれともつなげられない子のところにまっ先に行き、つなぐ。
- ・グループでの学び合いが停滞しているところに近づく。
- ・つぶやきをひろう動きを。

○子どものまちがいやつまずきは、新たな学びの機会ととらえて、いかしていく。

(3) 単元全体の目標を達成するため、学び合いを効果的に取り入れていく。

○単元の目標を達成するために、「基礎基本、知識・技能の習得をねらいとした授業」と「思考力・表現力を高め合うことをねらいとした授業」に分けて、より効果的に学び合いを取り入れ「質の高い学び」を探究させる。

(4) 学校課題研究・教材研究の時間として「文殊の知恵タイム」を毎週金曜日 4：15～4：30の15分間実施する。

○テーマを決めて、実施する。

○研究授業前には、「文殊の知恵タイム」や月曜日放課後に授業者が授業内容についてきく時間をとる。

(5) 授業参観において、「学び合い」の授業を行い、保護者に「学び合い」のよさを伝える機会とする。

○できれば、保護者が学習参加する機会をとる。

- ・4月28日(木) 授業参観
- ・6月29日(水) 授業参観
- ・12月7日(水) 学校公開
- ・2月15日(水) 授業参観

(6) 学び合いアンケートの実施（約1ヶ月に1回ペース、計10回実施）

○月1回実施し、子どもたちは安心して学んでいるか、聴き合う関係はできているかを把握する 一つのバロメーターにする。

(7) 家庭学習“本気”週間・親子読書週間を学期1回年間3回実施する。

○3回とも重点目標をしばって実施する。

(8) できるだけ多くの職員が「学びの共同体」実践校の視察をして、学んだことを持ち帰り全職員に伝える。

○今年度もできるだけ多くの職員が「学びの共同体」実践校の視察ができるようにする。

○今年度は、大沢中と本校で全職員が1年に1度は互いの研究授業・授業研究会に参加し、「学び合い」（子ども主体の授業）について意見交換することで、小中連携を深めていく。

5 授業改善のための研究授業・授業研究会の充実

研究授業・授業研究会を学校課題研究推進のための大きな柱とする。
・全職員年間最低2回の研究授業を実施する。

- 個人研究テーマを決める。 ※学校課題達成につながるテーマとする。
※研究教科は自由。
- ブロックごとに授業デザインについて協議する時間をとる。
※授業研究会での職員相互の学び合いに重点を置く。
- 指導案は、授業デザインとする。
- 7回とも、市教委等から外部指導者を要請する。

(1) 研究授業

《授業者》

- ・一人一人の学びを見取りながら、授業を展開していく。

《参観者》

- ・見るグループ（ペア）をしぼり、子ども同士がたがいに聴き合っているか、学び合っているか、支え合っているかを見取る。授業者の働きかけによる子どものつぶやきや表情などささいな変化を見取ることが、授業者のひいては自分自身の学びとなる。
- ・「わからない子」がわかるようになったきっかけを見取る。
- ・友だちとかかわれない一人でいる子が何らかの形で（一瞬でもいい）友だちとつながれたかどうかを見取る。

(2) 授業研究会

- 研究授業における子どもの学びの事実の省察から、教師同士が学び合う場とする。
※授業の善し悪しで評価している限り、教師は成長できない。
- 授業中の子どもたちの様子から見取ったことを中心に話し合う。
そのためにも、参観中の見取りを大切にする。子どもたちの見取りがていねいで具体的であればあるほど、授業研究会での協議は充実し深まる。
- 全体会においては、参加者全員が1度は発言するようにする。（同僚性を発揮する場とする）
- 子どもの学びの事実の省察が深まってきたら、「質の高い学び」に到達できたかどうか協議する。

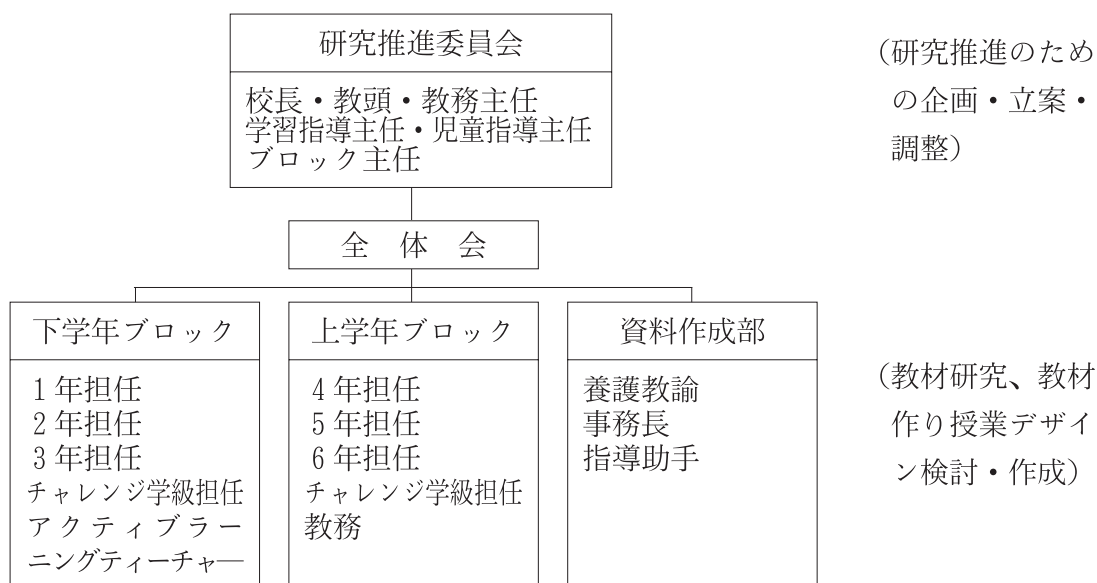
《授業者》

- ・授業中、自分では見取れなかった子どもたちの様子を参観者から聞くことで、新たな学びとすることができる。

《参観者》

- ・授業をみてそこから学んだことを話題にする。
- ・授業の見方も学ぶことができる。

6 研究組織



7 研究計画

月	内 容
4	学校課題（研究主題・研究内容について） 学校課題（授業開きにあたって、家庭学習の手引き作成） 学校課題（研究授業の授業者決定）
5	第1回研究授業・授業研究会
6	第2回研究授業・授業研究会 第3回研究授業・授業研究会
7	学校課題（1学期の成果と課題）
8	夏休み研修報告 第4回研究授業・授業研究会
9	
10	第5回研究授業・授業研究会
11	第6回研究授業・授業研究会「全学級授業公開」
12	学校課題（2学期の成果と課題）
1	
2	第7回研究授業・授業研究会
3	今年度の研究のまとめ 次年度の研究推進の方向性について検討

II 研究の実際

1 「聴き合う関係」を育てるため

- 相手の話を聴き、それにつなげた（続けた）話ができるようになった。
- 相手の話を自分のこととして受けとめて話せるようになってきた。
- 自分の話が終わった後、「〇〇くん、〇〇ちゃんはどう？」と問い返せる。
- 1つの考えだけでなく、他の考えで説明したりできるようになってきた。
- 言いたいことは言えるが、「聴く」ができない。
- ペアによるので、だれとでもできるようになるとよい。
- 尋ねるは、OKだが、つながれない子はまだいる。
- できている児童とできていない児童に差がある。
- ペアによってはできたりできなかったりする。
- 「〇〇ちゃん？」「わからない」「教えて」この言葉はよく出るようになってきた。
- どの学年も聴き合う関係が育ってきている。
- 「おしえて」と言われたら、一つの方法だけでなくちがう方法でアドバイスしたりしている。
- 1回でわかったかどうか⇒「なんかわかんないな」と言ったりしている。
- 自然と聴き合う態度が見られる。
- わかるまで説明したり、「わからない」と言えたりする場面が多くなってきた。
- しゃべり合う⇒聴き合う⇒学び合う⇒深め合う、が少しずつできるようになってきている。
- 自分の関心があった時には聞けるが、いつも聞けるわけではない。
- 自分の意見としては出せるが、人の意見を聞いて自分の学びとするまでとはいっていない。
- 担任でないからか？「聴く」になっていない⇒聴き合うになってない。
- できている部分もあったが、なかなか難しいというところ。
- 相手の話に続けて、自分の意見が言えるようになってきた。
- 自然に聴き合うようになっている。
- わからないとき、「どうやるの？」と友だちに聞けるようになってきた。
- 発言、発表の際には、注意集中が切れてしまう様子もみられた。
- 「なるほど」「わかってるよ」と言う場合がある。
- わからないとき「どうやるの？」と訊けるが、注意集中がきれてしまうこともある。



2 学び合いを深めさせ支え合う関係を育てるための手立て

- 基本的にはできていた。
- 自然な雰囲気。
- 特定の子、まだつながれない子もいる。
- 1つ意見が出たときに、その意見から根拠・理由を問うことによってさらに考えが深まる。
- 「つなげたい、足りない部分を補う」という面がでてきたが、深まっているかどうかは判断できない。



- 友だちの意見をつなげることはできる。学び合いを深めさせているかはわからない。
- 教えたい⇒一方的なところがまだある。さりげなく見守ることがたりない。
- 支え合う⇒教えるのは好きだが、支えるにはまだなっていない。
- 困っている子がいると気にしている。
- 今までわからなかったことがわかるようになった。
- 1つの考え⇒他の考えもあることに気づく。
- 深め支え合うまではいってない。自分のことだけで精一杯。困っている子には、まだ気をつかえない。
- 学習のねらいに沿って課題解決場面で支え合う様子はよく見られた。「深める」域については、今後の課題。
- 深めさせる？⇒訊いて、また自分の考えを練る。

3 単元全体の目標を達成するため、学び合いを効果的に取り入れていく

- いろんな教科で学び合いを取り入れてきた。
終われば、わかるかもしれない。

授業デザイン

2016年5月25日(水) 5校時 授業デザイン		授業者: 石川 創太
学年名	2年1組	男子: 7名 女子: 11名 計: 18名
教科名	算数科	
題名	ひき算のつづき (10/10)	
本時の流れ	2位数の借減法を適用して問題を解決することを通して、演算能力を高めることができる。	
① 導入について (教材のおもしろさ、教材の本質、指導観点など)	<p>筆算による減法のことたちが最も抵抗を感じるのが、繰り下りの処理の仕方かと思われる。繰り下りの場面では、筋道を立てて処理することが必要になってくるので、算数ブロックや数カードを用いてペアで説明し合う活動や大目につくことで、加法と減法の相互関係を考えさせることを重視したい。計算の確めにつけても、手探りで模索するのではなく、なぜ筋道の加法に減法を使うのかを考え、具体的な場面の中で適用できるようにしたい。</p>	
② 本時では、場面や問題によって加法と減法のとらえ方を適用するかをペアで十分対話させたい。	考えさせたい。特に、暗系列に従ってさう暗考も必要になってくるので、1つ1つの場面について絵を添用させることによってくきりとイメージさせたい。	
③ 本時の「学びたい」(77(p77)77(p77))について	<p>筆算や表を用いたように加法と減法のとらえ方を適用するかをペアで十分対話させたい。</p> <p>★本時の「質の学び」について</p> <p>加法の場面では、暗算をさのびのび減法で解決させることができることを理解させたい。</p>	
④ ①	<p>① 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑤ ②	<p>② 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑥ ③	<p>③ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑦ ④	<p>④ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑧ ⑤	<p>⑤ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑨ ⑥	<p>⑥ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑩ ⑦	<p>⑦ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑪ ⑧	<p>⑧ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑫ ⑨	<p>⑨ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑬ ⑩	<p>⑩ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑭ ⑪	<p>⑪ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑮ ⑫	<p>⑫ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑯ ⑬	<p>⑬ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑰ ⑭	<p>⑭ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑱ ⑮	<p>⑮ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑲ ⑯	<p>⑯ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
⑳ ⑰	<p>⑰ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉑ ⑱	<p>⑱ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉒ ⑲	<p>⑲ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉓ ⑳	<p>⑳ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉔ ㉑	<p>㉑ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉕ ㉒	<p>㉒ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉖ ㉓	<p>㉓ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉗ ㉔	<p>㉔ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉘ ㉕	<p>㉕ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉙ ㉖	<p>㉖ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉚ ㉗	<p>㉗ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉛ ㉘	<p>㉘ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉜ ㉙	<p>㉙ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉝ ㉚	<p>㉚ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉞ ㉛	<p>㉛ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㉟ ㉜	<p>㉜ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊱ ㉝	<p>㉝ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊲ ㉞	<p>㉞ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊳ ㉟	<p>㉟ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊴ ㊱	<p>㊱ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊵ ㊲	<p>㊲ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊶ ㊳	<p>㊳ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊷ ㊴	<p>㊴ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊸ ㊵	<p>㊵ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊹ ㊶	<p>㊶ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊺ ㊷	<p>㊷ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊻ ㊸	<p>㊸ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊼ ㊹	<p>㊹ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊽ ㊺	<p>㊺ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊾ ㊻	<p>㊻ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。
㊿ ㊼	<p>㊼ 場面・本質 繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。</p>	繰り下りを通して、減法の筆算の仕方を理解する。

-
- A black and white photograph showing three students, two boys and one girl, sitting at a desk and working together on a project. The girl is in the center, looking down at the desk. The boy on the left is looking towards the camera. The boy on the right is looking down at the desk. They are all smiling and appear to be engaged in their work.

文殊の知恵タイム

- [illegible]

- 保護者が授業に入ること、伝わってればいいが、よさが伝わったかはわからない。⇒訊いてみたい。
- 保護者は、子どもの様子には興味がある。うまく保護者を巻き込めなかった。学び合いをわかってもらうには、壁があるような？あまり前に入ってきてもらえなかった。
- 学び合いの雰囲気は味わってもらえた。子どもたちが考えを伝え合う雰囲気はわかってもらえた。「今の授業って、こんな感じ…」
- 保護者と相談する時間もとってみたが、伝わっていたかどうかは何とも言えない。安心してもらうことはできた。

- 3年Kさん、3回目で書いてくるようになった。
- 6年Dさん、1回目提出せず。2回目一週間遅れでやってきた。3回目は、家の人にも見てもらいしっかり提出できた。
- 3回目、提出率がよかった。
- 親子読書、なかなか時間がとれないようだ。
- 親が本を読む。→効果があった。
- 親はがんばっている人もいたが、難しいか…。
- 意識に個人差。続けることのよさ。
- 家庭学習については、効果があった。読書までは厳しい。学校では、よく読んでいた。

8 できるだけ多くの職員が「学びの共同体」実践校の視察をして、学んだことを持ち帰り全職員に伝える

- 大いに学びとなった。自分の目を見て、他の学校も同様にやってるんだということがわかり、参考になったし意欲づけにもなった。本校だけではないんだなと肌で感じた。
- 視察したことも報告を聞いたことも勉強になった。いろいろな授業をみることで、発問のしかたや学校によって机の配置がちがうことなどを学べた。



神奈川県茅ヶ崎市立浜之郷小学校

- 他の先生から聞いた報告をもとに、自分が視察に行ったときや講話を聴いたとき、重ねて考えることができたし、検証できることもあった。
- 他の先生から話を聞いて、穏やかに話すことなどが勉強になった。
- 新しい情報を得ることができた。
- 非常に興味深く聞かせてもらった。視察報告については、時間が足りなかったぐらい。
- 学び合いのときの子どもへの関わり方がためになった。

9 授業改善のための研究授業・授業研究会の充実

(1) 研究授業

- 今までやったことがなく0からだったので、研究授業をやってみて学びが得られた。
- 講師の先生に指導してもらって、逆にわからなくなってしまったこともあった。
- 学びを得られた。疑問に思うこともあった。市教委の岡本Tの指導助言は勉強になった。
- 授業を見させてもらってよかった。雰囲気があった。
- たくさん学んだ。多くやったことは、勉強になった。
- 講師の先生の話はとても勉強になった。



○自分で行うこと・参観すること、様々なことを学べた。

○見せてもらったことが、大きな学び。

○見せてもらうことでも、得られる点が多かった。

○授業作りの視点を学ぶことができた。

○市教委の先生に迷っているところをピンポイントで訊けた。

○事前に市教委の先生に授業の意図を伝えることができたことがよかった。

○研究授業は、1回だとただやればいいになってしまう。2回なら指導を受けたことを活かせる。

○研究授業は1回だけだと物足りない。これからどうやっていくのか見えてきた後、「やってみっかな」というのが1回だとできない。

○公開1発では、学びがない。

○成長のために研究授業2回は適度。

○1回目で考え、2回目で改善、試す。

○研究授業1回、授業公開1回が適当か？

○授業デザインは、今のままでよい。とにかく、指導観とか文章におこすことが負担。授業そのものに力を注ぎたい。

○時間の大きな流れが猪倉スタイルとした方がよい。

○今のままなら、授業中の変化もしやすい。練りやすい。



(2) 授業研究会

○こんな意見もあるのかと、新鮮だった。

○よく見ることができていない部分も多かった。これだけでいいのか、アドバイスのものがないと、よい点を指摘するだけで伸びるのか？

○子どもの見取り中心の協議、こういう雰囲気で見てもらえればいやな気持ちにならない。批判されてしまうのではないかという不安もあったから。気負わずにかけた部分もあった。

しかし、自分のやり方に自身がない分、本当にそれでよいのか、アドバイスの部分はほしかった。

○授業者は見とれないことが多い。ダメだったとき（子どもの活動が停滞したとき）、どうすればよかったのか考えを出し合うとよい。

○見とれない部分に関して学びを得られた。



- 多くの学びを得られた。
- いろいろな先生から意見を得られたことはよかった。
- 2年目となったとき、的確なアドバイスがほしい。
- 子どもたちの活動が停滞してしまったときのアドバイスがほしい。
- 自分ではわからない見取りを聞くことができた。
- 研究授業は成長のため2回が適当。

10 公開研究会をもち、全教師が授業を公開する

- こうしなきゃ、という反省ばかり。
- やる前は冷静沈着にと思っていたも、いざ始まるとぶっ飛んじゃう。反省は多いが、回を重ねるしかない。
- 多くの学びを得られた。



Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 単元の目標を達成するために、効果的に「学び合い」を取り入れていく。
 - ・「思考力・表現力を高め合うことをねらいとした授業」においては、課題・教材（テキスト、資料）と子どもの学びとの接点を見つめ、質の高い学び（深い学び）を探究していくことが大切であることが見えてきた。
 - ・「基礎基本、知識・技能の習得をねらいとした授業」においても、ペアやグループでアドバイスし合いながら取り組むことが有効であることがわかってきた。
- 子ども同士がたがいにつながれる教室環境を整え、聴き合う関係を育む。（通常は、全学級コの字型）
 - ・わからないときに「ここわからないんだけど、どうするの？」と訊ける子が増えてきた。訊かれた子は、わかるまでていねいにアドバイスすることができるようになってきた。
 - ・学び合いアンケート：「授業中わからないとき、友だちに『ここどうやるの？』ときいています。」について5月の達成度は76%だったが、1月は80%に上がった。
 - ・「わかる」ことより「わからない」ことが大切にされ「わからない」ことが受容される学級は、新たな学びを得るチャンスが増えている。

○研究授業・授業研究会

- ・全職員が2回以上の研究授業を行い、授業研究会で協議し、招いた講師の先生に指導助言をいただいたことは、「学び合い」の授業について新たな学びを得る貴重な機会となった。
- ・11月16日の「授業公開」に向けて、市教委の先生が事前に来校して授業デザインの検討を個別にしてくださった。そのことは、各教師が研究テーマにしている研究教科の専門性を高めることにつながった。また、今後も教科の専門性を高めることを抜きに質の高い学び（深い学び）に迫ることはできないことを改めて認識することができた。
- ・小林和雄先生（福井大学）にすべての授業について指導助言をいただくことによって、今学ぶべきことが明らかになった。また、小林先生の講話から、「主体的で対話的で深い学び」における「学び合い」の位置づけが明確になり、「子どもと対象との対話」という視点をいただけたことで、今後の研究の方向性が見えてきた。
- ・根本光子先生（元つくば市立並木小学校長）に2回来てもらい、その間の子どもたちの学びに向かう姿の変容や教師の成長を見て価値付けしていただけたことは、今後研究を進めていく上で揺らぐことのない足場を得たように感じた。今後迷ったときに戻るべき足場を得たことは大きい。
- ・授業研究会において、各教師から出る子どもたち一人一人の見取りが丁寧かつ的確で、授業者にとってはふだんの授業ではわからない多くの学びを得る場となっている。同僚性が大いに発揮されている。各教師の見取りからは、夢中になって学ぶ子ども一人一人への優しいまなざしを感じる。



○年間4回の授業参観に保護者が学習参加する機会をとり、「学び合い」のよさを伝えていく。

- ・保護者に子どもたちが考えを伝え合う学び合いの雰囲気はわかってもらえた。
- ・保護者の声「保護者を含めた参加型授業、とても良かったです。私の小学校の頃とは、だいぶちがいますね。わからないことは友だちにきいて、やさしくわかりやすく教えている姿に感動しました。」「自分が解き終わった後にお友だちにヒントを出しているのを見て、成長したなと思いました。」

○授業をもつ教師全員が「学び合い」実践校の視察をして、新たな学びを持ち帰り全職員に伝える。

- ・授業者11名中9名が「多くの学びを得られた」と答えていた。

- ・授業者の声：「自分の目で見て他の学校も同様にやってるんだということがわかり、参考になったし意欲づけにもなった。本校だけではないんだなと肌で感じた。」
- 学校課題研究の時間として「文殊の知恵タイム」（4～5人グループで協議）を週1回15分間実施していく。
- ・「学び合い」についての疑問点を出し合い、「ああじゃない、こうじゃない」とざっくばらんに協議することができた。そのことが、同僚性を高め、専門性を探究するきっかけとなった。
 - ・職員が4～5人のグループに分かれ丸テーブルで顔を向き合わせて協議することが、日頃の疑問を出しやすくし新たな学びを数多く生み出すことがわかった。
 - ・授業者の声：「個人名をあげて、『今日の授業で、ふだん集中できない子が、すごく夢中になって学んでいたよ』という話を聞いたことが役立った。」
- 家庭学習本気週間・親子読書週間を学期1回年間3回実施し、特に自主学習の充実を図る。
- ・家庭学習の1日の平均時間が1学期と2学期では、1年生（29分⇒38分）、2年生（27分⇒25分）、3年生（43分⇒43分）、4年生（44分⇒43分）、5年生（48分⇒65分）、6年生（75分⇒79分）となった。個別に見ると、家の人からの励ましがあると、決まった時間に学習に集中できる傾向がある。
 - ・今年は実施して3年目で継続していくと意欲が低い子もそれなりに高まっていくことがわかった。
 - ・6年Aさんの例：1回目提出なし、2回目1週間遅れで提出、3回目家の人の協力も得られしかり提出。
- 学び合いアンケートを月1回実施し、子どもが安心して学んでいるかを知るバロメーターとする。
- ・項目ごとや学級ごと学校全体などで数値化できるため、子どもが安心して学べているかどうかを大きなスパンでとらえることができる。
 - ・5月の学校全体の学び合い達成度は74%で、1月は80%だった。学び合いを通して学級に安心して学ぶ雰囲気が醸成され、安心して学ぶ子が増えていると推察できる。
- 思考力・表現力が高まったかどうかの評価の工夫
- ・思考力・表現力が高まったかどうかをペーパーテストだけで評価することは難しいことがわかってきた。学び合いによって思考力・表現力が高まったかどうかを評価するためには、1時間の授業中における見取りだけでは不十分で（子どもの学びは、学びが反すうするように内的に実り時間を経て表出されることが多々あることがわかってきたため）、数時間にわたりていねいな見取りを続けていくことが大切になる。その際、子どもに授業中記述させる「振り返り・まとめ」は、教師の見取りと合わせ、評価のための貴重な材料となり得る。
- 聴き合う関係
- ・言いたいことをしゃべり合う。訊き合う、尋ねるは、できてきている。
 - ・相手のことをくみ取る。それを受けて練り直すことができていない。

- 子どもに預けて⇒子どもたちが学び合いを自動的にできるようになってきた。
- 学び合いを繰り返し取り入れる。⇒効果が出てきている。
- 子どもの学び、すごく向上している。
 - ・昨年度と今年度の授業の動画を比較したところ、本当に違っていた。
 - ・昨年度は、子どもの学び合いが際立った。
 - ・今年度は、先生の声のトーンと自信が際立った。
 - ・職員が協同してやっている姿が伝わってきた。
- 今後は、一人一人の先生が微調整していくとよい。
 - ・子どもの顔が先生に向かないと感じたら、コの字から開く形にするとか。
 - ・もはや、先生方の差がない。トップランナーが引っ張るという感じではない。
- ためらわずに、自分のやり方を追究していい。
- 「主体的に」という部分を前面に押し出していい。



2 課 題

授業研究会における協議は、これまでは子どもの学びの見取りに徹してきたが、教師の見取りが丁寧かつ的確になってきた現在、授業者・参観者ともにより深い専門性の高い学びにつながる協議にしていくことが求められている。

今後は授業研究会において、子どもの学びと教材（課題、テキスト、資料）との接点やその接点を通して質の高い学び（深い学び）に達する学びの可能性を中心に協議していく。